

平成30年度
学校関係評価報告書

平成30年10月
学校法人昭徳学園
九州動物学院

平成 30 年度学校関係評価報告書について

学校法人昭徳学園九州動物学院は、平成 16 年に設立され、学校法人化して 3 年となる
ところです。専修学校の学校評価につきましては、自己評価、学校間者評価の実施・公表
が謳われており、昨年度本学院でも自己点検評価を実施公表したところです。

今年度は実践的な職業教育取り組んできた本学院においても、更なる教育の質保証およ
び向上を目的として、自己点検評価をもとに学校関係者による評価を実施することにいた
しました。関係団体、行政、大学、企業関係などの分野の第一線で活躍されている先生方
に委員をお願いし、学校関係評価を実施いたしました。

今回の評価を真摯に受け止め、職員一同今後とも業界と地域の期待に応えられる学校運
営に努める所存です。

今後とも、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 10 月

学校法人昭徳学園九州動物学院
学院長 足立國功

1 学校関係評価の実施方法

本学院が学校関係評価については、平成 29 年度に実施した「学校法人昭徳学園九州動物学院自己点検・評価報告書」について、本学院に関係のある 4 名の評価委員に評価していただいた。

評価の結果については、報告書として取りまとめホームページ上で公開することとした。すでに公開している、「平成 29 年度自己点検・評価報告書」と合わせてご覧ください。

2 学校関係評価委員一覧表

名前	所属	任期	種別
藤井 琢磨	総合動物病院デーリー院長	2018 年 9 月 30 日 ～2020 年 9 月 29 日	専門家等 評価委員
石原 貢一	熊本県動物愛護センター長	2018 年 9 月 30 日 ～2020 年 9 月 29 日	企業団体等 評価委員
芝田 猛	東海大学名誉教授	2018 年 9 月 30 日 ～2020 年 9 月 29 日	学識経験者等 評価委員
松尾 正直	松尾愛犬訓練学校校長	2018 年 9 月 30 日 ～2020 年 9 月 29 日	企業・専門家等 評価委員

学院参加者

九州動物学院 学院長 足立國功
同 副学院長 本田公三
同 事務局長 堀川貴子

3 評価会議次第

日 時 平成 30 年 9 月 30 日（日）13 時 30 分

場 所 九州動物学院 3F 第 3 教室

次第

(1)開会

(2)学院長挨拶

- ・ 学院長から、学校関係評価委員会の趣旨と職業実践専門課程についての説明

(3)委嘱状交付

- ・ 各委員に委嘱状の交付

(4)委員長選出

- ・ 委員長に総合動物病院デーリー院長藤井琢磨先生を選出

(5)学院紹介

- ・ 事務局より学院の概要を説明

(6)平成 29 年度自己点検・評価報告

- ・事務局から「平成 29 年度学校法人昭徳学園九州動物学院自己点検・評価報告書」について説明

(7)報告に関する意見交換

- ・各評価委員から、自己点検評価及び学院活動全般に対するご意見、ご指導をいただいた。

(8)その他

- ・今後の予定等

(9)学院長謝辞

(10)閉会

4 評価内容

当初評価会議は、平成 29 年度自己点検評価項目ごとに意見をいただく予定であったが、委員長から項目については詳細なところまでわからないため、各委員からそれぞれ、学院運営上の課題点・改善策などのご意見要望などをお聞きしたらどうかと提案があり、学院側も了承した。

報告書のまとめ方としては、ご意見を評価項目のいずれかに該当するものは、その項目に記載し、該当しない意見についてはその他として整理した。

また、自己評価項目になかった学院の運営状況について、学生数の推移と就職状況として過去 8 年（在学生含む）の入学者数、卒業者数、就職者数を提示して併せて評価いただいた。

1 教育理念・目標

藤井委員

- ・学校では 18～20 歳の人生に関わる非常に重要な時期である。自分の一生をかける時期に、理念に基づき、想い、最先端技術を知るために寄与していただきたい。

2 学校運営

石原委員

- ・学校と動物病院が一緒であるのは大きな特色である。

3 教育活動

松尾委員

- ・1、2 年生を年間通して教えることが必要。学生にセンスの違いがあり、均等に教えられるか、カリキュラム上の問題がある。
- ・石原所長もいらっしゃるの言うが、県動物愛護センターから保護犬を学院で預かって訓

練をし、また愛護センターに返せば譲渡先が見つかるのではないか。そのようなシステムがあると学院の評価も高まるのではないか。

4 教育成果

石原委員

・動物を好きなのはいいが、それだけでは上手く行かない。人との連携が必要であり、コミュニケーション能力を高める等学院の方で教育をしていただきたい。

芝田委員

・免疫学を教えていて内容は人の看護師レベルで教えていてもわかっていないのでは、寝ている学生が多い。

・内容を深く知るための授業ができているか自問している。

・獣医看護師の仕事の必要性をもう少しアピールした方がよい。

松尾委員

・15年間学院で教えているが、1、2年生を通して教えるなどの一貫性が必要である。

・学生にセンスの違いがあり、均等に教えられるか、カリキュラム構成が難しい。

石原委員

・現在熊本県動物愛護センターには、動物愛護専門員が7名いるが内4名は学院出身者である。動物のことを真剣に考えているので意見のぶつかり合いも多々ある。これはとても重要だ。このような学生を送り出しているのは評価できる。

5 学生支援

藤井委員長

・2年間の学院生活は学生の人生の中で人として成長する重要な時期であると思う。知識技術も必要であるが、人間成長のための教育をなすべき。挨拶や掃除はとても重要なことを伝えてほしい。

石原委員

・インターンシップ預かったが、学院の学生はよく動いている、人とのコミュニケーションもっとできればいいと思う。

事務局

・学院のカリキュラムにビジネスマナー、就職支援、掃除学等を行っており、コミュニケーションスキル、効果的な掃除法から実践方法まで行っているところ。

6 教育環境

石原委員

- ・学校と動物病院が一緒であるのは大きな特色

7 学生募集と受入れ

藤井委員長

- ・動物病院に学院のパンフレットを置いてもらい、動物に関心ある方に知ってもらい知名度を上げるのではないかな。

芝田委員

- ・知名度上げるため、市電への広告はどうか。東海大学で実施したことがあるが結構効果があったようだ。

8 法令遵守

- ・特になし。

9 社会貢献

藤井委員長

- ・ボランティア団体が行う TNR 等への積極的な参加は評価できる。

10 学生数の推移と就職状況

入学年度	①入学者数	②卒業者数	③就職者数
平成 23 年度 (2011)	28 名	25 名 (履修生 1 名)	24 名
平成 24 年度 (2012)	40 名	35 名	35 名
平成 25 年度 (2013)	34 名	31 名	30 名
平成 26 年度 (2014)	31 名	29 名	22 名
平成 27 年度 (2015)	33 名	28 名 (法人 1 期卒業)	27 名
平成 28 年度 (2016)	23 名 (法人 2 期入学)	21 名	20 名
平成 29 年度 (2017)	27 名		
平成 30 年度 (2018)	35 名		

藤井委員長

- ・定員は 40 名に満たない年が多いが、学院継続のために、また学院に来てよかったと思えるような大いに魅力を発信していただきたい。

学院長

- ・卒業生も 300 人超えていることから、昨年度同窓会を組織した。これは卒業後も卒業生同士または学院との交流連連携を図ることで学院の魅力向上につながると考えている。

11 その他

- ・動物を好きなのはいいが、他の人との連携が必要であり、学院で教育をしていただきたい。
- ・仕事を選ぶときは好きなことで選ぶと嫌いになる。嫌いな仕事を続けると好きになり長続きする。
- ・農業公園で動物のイベントがあったが、近くの農業高校がボランティアで来ていた。畜産関係に興味がある学生にも学院に来てもらうようにした方がよい。
- ・最近産業動物関係で獣医師のアシスタントが求められている。診断を獣医師、感受性試験などを動物看護師が行うと治療が速やかに行われる。
- ・熊本県が殺処分ゼロを宣言してから、愛護センターに多くの人が訪れるようになり、コミュニケーションスキルがますます重要になる。
- ・自己点検評価の中で、職員の自己評価を授業に関わっている講師が外部評価として評価している。学校関係評価にあたらないか。
- ・評価委員に専門学校に送り出す側の高校の先生が入るとバランスがとれるのではないか。